

**IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE**

Applicant: TSUCHIZAKI, Akihiro )  
Serial No.: To Be Assigned ) Group Art Unit: To Be Assigned  
Filed: Concurrent Herewith ) Examiner: To Be Assigned  
For: License Plate Holding Bracket and the )  
Holding Structure Thereof )

**CLAIM FOR FOREIGN PRIORITY**

Commissioner for Patents  
P.O. Box 1450  
Alexandria, VA 22313-1450

Sir:

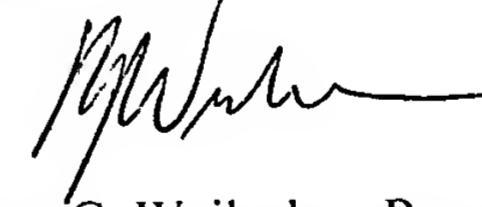
Relating to the above-identified United States patent application, and under the provisions of Section 119 of 35 U.S.C., Applicant hereby claims the benefit of the following Japanese applications filed on September 17, 2002:

Application No. 2002-270020;  
Application No. 2002-270040;  
Application No. 2002-270044;  
Application No. 2002-270109; and  
Application No. 2002-270116.

In support of Applicant's claim for priority, certified copies of said Japanese applications are attached hereto.

Respectfully submitted,

SMITH, GAMBRELL & RUSSELL, LLP



By: Robert G. Weilacher, Reg. No. 20,531

Dated: September 15, 2003  
Suite 3100, Promenade II  
1230 Peachtree Street, N.E.  
Atlanta, Georgia 30309-3592  
Ph: (404) 815-3593  
Fax: (404) 685-6893

日本国特許庁  
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出願年月日

Date of Application:

2002年 9月17日

出願番号

Application Number:

特願2002-270020

[ST.10/C]:

[JP2002-270020]

出願人

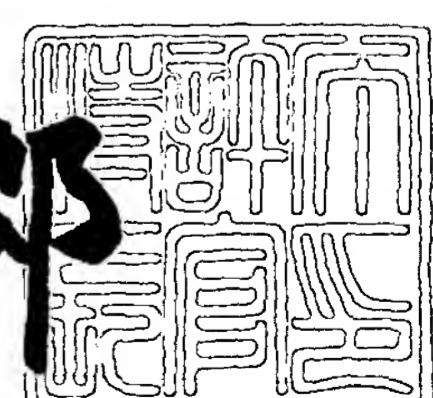
Applicant(s):

富士重工業株式会社

2003年 3月 4日

特許庁長官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

太田信一郎



出証番号 出証特2003-3013009

【書類名】 特許願

【整理番号】 GG020804

【提出日】 平成14年 9月17日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 B60R 13/00

【発明者】

【住所又は居所】 東京都新宿区西新宿一丁目7番2号 富士重工業株式会社内

【氏名】 土崎 彰洋

【特許出願人】

【識別番号】 000005348

【氏名又は名称】 富士重工業株式会社

【代理人】

【識別番号】 100090033

【弁理士】

【氏名又は名称】 荒船 博司

【選任した代理人】

【識別番号】 100093045

【弁理士】

【氏名又は名称】 荒船 良男

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 027188

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【ブルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 ライセンスプレート保持ブラケット及び車両のライセンスプレート保持構造

【特許請求の範囲】

【請求項1】

車両の荷台の後端に回動自在に設けられ、略垂直状態で前記荷台を開状態とし、略水平状態で前記荷台を開状態とするリヤゲートに取り付けられるライセンスプレート保持ブラケットであって、

前記リヤゲートに固定されるゲート側固定部材と、

ライセンスプレートを保持し、前記ゲート側固定部材に回動自在に接続され、前記リヤゲートに対して前記ライセンスプレートを略平行な状態と、略起立した状態と、に移動可能なプレート保持部材と、を備え、

前記プレート保持部材に、前記リヤゲートが略水平状態のときに前記リヤゲートに対して前記ライセンスプレートとが略起立した状態となると車両のリヤバンパと当接するストッパ部材を設けたことを特徴とするライセンスプレート保持ブラケット。

【請求項2】

前記ストッパ部材は、前記リヤゲートと前記ライセンスプレートとが略平行な状態となると前記リヤゲートに当接することを特徴とする請求項1記載のライセンスプレート保持ブラケット。

【請求項3】

前記ストッパ部材は、前記リヤゲートと前記ライセンスプレートとが略平行な状態となると前記ゲート側固定部材に当接することを特徴とする請求項1記載のライセンスプレート保持ブラケット。

【請求項4】

前記ストッパ部材は、弾性体であることを特徴とする請求項1から3のいずれか一項に記載のライセンスプレート保持ブラケット。

【請求項5】

前記ゲート側固定部材及び前記プレート保持部材は、それぞれ板状に形成され

前記プレート保持部材の所定方向の一端側が、前記ゲート側固定部材に回動自在に接続されることを特徴とする請求項1から4のいずれか一項に記載のライセンスプレート保持ブラケット。

#### 【請求項6】

車両の荷台の後端に設けられ、略垂直状態で前記荷台を開状態とし、略水平状態で前記荷台を開状態とするリヤゲートと、

前記リヤゲートに固定されるゲート側固定部材と、

ライセンスプレートを保持し、前記ゲート側固定部材に回動自在に接続され、前記リヤゲートに対して前記ライセンスプレートを略平行な状態と、略起立した状態と、に移動可能なプレート保持部材と、

前記プレート保持部材に設けられ、前記リヤゲートが略水平状態のときに前記リヤゲートに対して前記ライセンスプレートとが略起立した状態となると車両のリヤバンパと当接するストッパ部材と、を備え、

前記リヤゲートに、前記ライセンスプレート保持ブラケットに対して凹に形成され、前記ストッパ部材を受容する受容凹部を形成したことを特徴とする車両のライセンスプレート保持構造。

#### 【発明の詳細な説明】

##### 【0001】

##### 【発明の属する技術分野】

本発明は、荷台の後端にリヤゲートを有する車両に取り付けられるライセンスプレート保持ブラケット及びこれを備えた車両のライセンスプレート保持構造に関するものである。

##### 【0002】

##### 【従来の技術】

従来、荷台の後端にリヤゲートを有する車両には、通常、荷台下方のリヤバンパにライセンスプレートが取り付けられる。この種の車両のライセンスプレート保持構造としては、リヤバンパにライセンスプレートの取付面を形成し、ボルト及びナット等により、リヤバンパに直接的にライセンスプレートを取り付ける構

造が一般的である（例えば、特許文献1参照。）。

【0003】

【特許文献1】

特開平10-230799号公報（第4頁、第1図）

【0004】

【発明が解決しようとする課題】

ところで、ライセンスプレートをリヤゲートに取り付けることができれば、車両の造形上の自由度が飛躍的に向上する。しかしながら、前記ライセンスプレート保持構造のように、ライセンスプレートを直接的にリヤゲートに取り付けると、リヤゲートが略水平状態となった際に、ライセンスプレートを後方から視認することができないという問題点がある（例えば、特許文献1参照。）。

【0005】

ここで、この問題点を解消するため、ライセンスプレートをリヤゲートに対して回動自在に取り付け、リヤゲートが略水平状態のときに、ライセンスプレートをリヤゲートに対して回動させ、ライセンスプレートを後方から視認可能な状態とすることが考えられる。ところがこの場合、リヤゲートが略水平状態、略垂直とする状態のいずれであっても、ライセンスプレートを的確に支持するということは困難であり、ライセンスプレートの振動等を抑制することができないという問題点が生ずる。

【0006】

本発明は、前記事情に鑑みてなされたものであり、その目的とするところは、リヤゲートが略垂直状態であっても、略水平状態であっても、ライセンスプレートを車両後方から視認することができ、且つ、ライセンスプレートを的確に支持することができるよう、ライセンスプレートをリヤゲートに取り付けることのできるライセンスプレート保持ブラケット及びこれを備えた車両のライセンスプレート保持構造を提供することにある。

【0007】

【課題を解決するための手段】

前記目的を達成するため、請求項1記載の発明では、車両の荷台の後端に回動

自在に設けられ、略垂直状態で前記荷台を開状態とし、略水平状態で前記荷台を開状態とするリヤゲートに取り付けられるライセンスプレート保持ブラケットであって、前記リヤゲートに固定されるゲート側固定部材と、ライセンスプレートを保持し、前記ゲート側固定部材に回動自在に接続され、前記リヤゲートに対し前記ライセンスプレートを略平行な状態と、略起立した状態と、に移動可能な前記ライセンスプレート保持部材と、を備え、前記プレート保持部材に、前記リヤゲートが略水平状態のときに前記リヤゲートに対して前記ライセンスプレートとが略起立した状態となると車両のリヤバンパと当接するストッパ部材を設けたことを特徴とする。

## 【0008】

請求項1記載の発明によれば、リヤゲートが略垂直状態のときは、ライセンスプレートがリヤゲートと略平行な状態となるように、プレート保持部材を位置させる。これにより、車両の後方からライセンスプレートが観認可能な状態となる。

また、リヤゲートが略水平状態のときは、ライセンスプレートがリヤゲートに対して略起立した状態となるように、プレート保持部材を位置させる。すなわち、略水平のリヤゲートから、ライセンスプレートが下方へ突出するので、車両の後方からライセンスプレートが観認可能な状態となる。このとき、プレート保持部材のストッパ部材は、リヤバンパと当接する。

## 【0009】

従って、リヤゲートが略垂直状態であっても、略水平状態であっても、ライセンスプレートを車両後方から観認することができる。すなわち、荷台を開状態のままでも、ライセンスプレートが後方より観認される状態であるので、支障なく車両を走行させることができ、実用に際して極めて有利である。

また、リヤゲートが略水平な状態で、且つ、リヤゲートに対してライセンスプレートが略起立した状態では、プレート保持部材のストッパ部材がリヤバンパと当接することにより、プレート保持部材及びライセンスプレートがリヤバンパに的確に支持され、ライセンスプレートの振動等が抑制される。すなわち、リヤゲートが略水平状態のときに、ライセンスプレートの振動等を抑制することができ

、ブラケットの各部の信頼耐久性を確保するとともに、びびり音等を抑制することができる。

さらに、リヤゲートにライセンスプレートを取り付けることができるので、車両の造形上の自由度が飛躍的に向上し、車両の商品性を向上することができる。

#### 【0010】

請求項2記載の発明では、請求項1記載のライセンスプレート保持ブラケットにおいて、前記ストッパ部材は、前記リヤゲートと前記ライセンスプレートとが略平行な状態となると前記リヤゲートに当接することを特徴とする。

#### 【0011】

また、請求項3記載の発明では、請求項1記載のライセンスプレート保持ブラケットにおいて、前記ストッパ部材は、前記リヤゲートと前記ライセンスプレートとが略平行な状態となると前記ゲート側固定部材に当接することを特徴とする。

#### 【0012】

請求項2及び3に記載の発明によれば、請求項1の作用に加え、リヤゲートとライセンスプレートとが略平行な状態で、プレート保持部材のストッパ部材は、リヤゲート又はゲート側固定部材と当接する。

#### 【0013】

従って、リヤゲートとライセンスプレートとが略平行な状態では、プレート保持部材のストッパ部材がリヤゲート又はゲート側固定部材と当接することにより、プレート保持部材及びライセンスプレートがリヤゲートに的確に支持され、ライセンスプレートの振動等が抑制される。すなわち、リヤゲートが略垂直状態、略水平状態のいずれであっても、ライセンスプレートの振動等を抑制することができ、ブラケットの各部の信頼耐久性を確保するとともに、びびり音等を抑制することができる。

さらに、ストッパ部材が、リヤゲートが略垂直状態のときはリヤゲート又はゲート側固定部材と、リヤゲートが略水平状態のときはリヤバンパと当接するので、リヤゲートの開閉状態に対応するように別個にストッパ部材を設ける必要がなく、部品点数を削減して製造コストを低減することができる。

## 【0014】

請求項4記載の発明では、請求項1から3のいずれか一項に記載のライセンスプレート保持ブラケットにおいて、前記ストッパ部材は、弾性体であることを特徴とする。

## 【0015】

請求項4記載の発明によれば、請求項1から3のいずれか一項の作用に加え、ストッパ部材が弾性体であるので、走行時の車両の振動によるリヤゲート又はリヤバンパとプレート保持部材との相対的な移動は、ストッパ部材の伸縮により吸収される。すなわち、車両の走行時に、プレート保持部材を的確にリヤゲート又はリヤバンパに追従させることができる。

## 【0016】

従って、プレート保持部材及びライセンスプレートが、車両走行時にリヤゲート又はリヤバンパに対してばたつくことはなく、ブラケットの各部の信頼耐久性をさらに向上することができるし、さらに効果的にびびり音等を抑制することができる。

## 【0017】

請求項5記載の発明では、請求項1から4のいずれか一項に記載のライセンスプレート保持ブラケットにおいて、前記ゲート側固定部材及び前記プレート保持部材は、それぞれ板状に形成され、前記プレート保持部材の所定方向の一端側が、前記ゲート側固定部材に回動自在に接続されることを特徴とする。

## 【0018】

請求項5記載の発明によれば、請求項1から4のいずれか一項の作用に加え、プレート保持部材の所定方向の他端側をゲート側固定部材と近接するように、プレート保持部材をゲート側固定部材に対して回動させ、ゲート側固定部材とプレート保持部材とが略平行な状態となるよう折り畳むと、リヤゲートとライセンスプレートとが略平行となる。

また、プレート保持部材の所定方向の他端側をゲート側固定部材から離隔するように、プレート保持部材をゲート側固定部材に対して回動させ、プレート保持部材をリヤゲート側から突出させると、リヤゲートに対してライセンスプレート

が略起立した状態となる。

## 【0019】

従って、リヤゲートを略垂直状態で使用する場合は、ゲート側固定部材とプレート保持部材とが折り畳まれるので、ブラケット全体を薄型とすることができ、レイアウト上有利である。また、リヤゲートが略水平状態のときに、ライセンスプレートをリヤゲートから下方へ比較的大きく突出させることができ、ライセンスプレートの視認性を良好なものとすることができます。

## 【0020】

請求項6記載の発明では、車両のライセンスプレート保持構造において、車両の荷台の後端に設けられ、略垂直状態で前記荷台を開状態とし、略水平状態で前記荷台を開状態とするリヤゲートと、前記リヤゲートに固定されるゲート側固定部材と、ライセンスプレートを保持し、前記ゲート側固定部材に回動自在に接続され、前記リヤゲートに対して前記ライセンスプレートを略平行な状態と、略起立した状態と、に移動可能なプレート保持部材と、前記プレート保持部材に設けられ、前記リヤゲートが略水平状態のときに前記リヤゲートに対して前記ライセンスプレートとが略起立した状態となると車両のリヤバンパと当接するストッパ部材と、を備え、前記リヤゲートに、前記ライセンスプレート保持ブラケットに對して凹に形成され、前記ストッパ部材を受容する受容凹部を形成したことを特徴とする。

## 【0021】

請求項6記載の発明によれば、リヤゲートとライセンスプレートとが略平行な状態で、ストッパ部材はリヤゲートの受容凹部内に受容される。これにより、ストッパ部材の寸法を考慮することなく、プレート保持部材がリヤゲート側に近接する位置に設定することができる。

## 【0022】

従って、リヤゲートに近接させてライセンスプレート保持ブラケットを設置することができ、リヤゲートからブラケット及びライセンスプレートが大きく突出することはなく、車両の見栄えを損なうことがなく、実用に際して極めて有利である。

[0023]

### 【発明の実施の形態】

図1から図8は本発明の一実施形態を示すもので、図1はリヤゲートが略垂直状態の車両の背面図、図2はゲート側固定部材とプレート保持部材とが略平行な状態のライセンスプレート保持ブラケットの背面図、図3はゲート側固定部材に対してプレート保持部材が略起立した状態のライセンスプレート保持ブラケットの正面図、図4はゲート側固定部材に対してプレート保持部材が略起立した状態のライセンスプレート保持ブラケットの側面図、図5はリヤゲートが略垂直状態でライセンスプレートがリヤゲートに対して略起立した状態の車両の外観斜視図、図6はリヤゲートが略水平状態でライセンスプレートがリヤゲートに対して略起立した状態の車両の外観斜視図、図7はリヤゲートが略垂直状態でライセンスプレートがリヤゲートに対して略平行の状態の車両の一部側面説明図、図8はリヤゲートが略水平状態でライセンスプレートがリヤゲートに対して略起立した状態の車両の一部側面説明図である。

[0024]

図1に示すように、車両の荷台の後端には、荷台を開閉するリヤゲート1が設けられる。このリヤゲート1は、下端が荷台後端に回動自在に設けられ、略垂直状態で荷台を閉状態とし、略水平状態で荷台を開状態とする。

[0025]

リヤゲート1には、ライセンスプレートLPを回動自在に保持するライセンスプレート保持ブラケット2が固定される。このライセンスプレート保持ブラケット2は、図3に示すように、リヤゲート1に固定されるゲート側固定部材3と、プレート保持部材4とを有している。図4に示すように、ゲート側固定部材3とプレート保持部材4とは、回動機構5により接続され、図2及び図3に示すロックプレート保持部材4とは、回動機構6によりロック可能となっている。すなわち、リヤゲート1が荷台に対しク機構6によりロック可能となっている。リヤゲート1が荷台に対して回動自在であるとともに、プレート保持部材4はゲート側固定部材3（リヤゲート1）に対して回動自在であり、図5及び図6に示すように、リヤゲート1の回動位置に応じて、プレート保持部材4を回動させることができるようにになってい

る。以下、リヤゲート1が略垂直状態で、ライセンスプレートLPがリヤゲート1に対して略平行の状態のときの前後、上下方向を基準として、ライセンスプレート保持ブラケット2について説明する。

## 【0026】

図7及び図8に示すように、ゲート側固定部材3は板状に形成されリヤゲート1に沿って固定される。ゲート側固定部材3は、左右方向に延び、左右端部側に回動機構5が接続される。本実施形態においては、この回動機構5は、ゲート側固定部材3の上側に接続される。また、図3に示すように、ゲート側固定部材3の左右端部側には、ロック機構6のストライカ部6aが取り付けられる。尚、本実施形態においては、ゲート側固定部材3は、左右中央下部が切り欠かれた形状となっている。

## 【0027】

図2に示すように、プレート保持部材4は、略四角形の板状に形成され、ライセンスプレートLPを保持する。本実施形態においては、プレート保持部材4の左右端部側の上側に、回動機構5が接続される。また、本実施形態においては、プレート保持部材4には、ライセンスプレートLPを保持するためのウエルディングボルト7が設けられる。また、プレート保持部材4の後面左右端部側で樹脂製のカバー11の裏側には、ライセンスプレートLPを照射するランプ8が設けられる。また、プレート保持部材4には、その下端及び前面下部を被覆する樹脂部材9が係合している。また、プレート保持部材4の前面には、左右一対のストッパ部材10が設けられる。また、プレート保持部材4の前面には、ロック機構6のラッチ部6bが設けられる。さらに、プレート保持部材4の後面には、ラッチ部6bに接続される操作ボタン6cが設けられ、この操作ボタン6cの周囲は樹脂製のカバー11により覆われる。

## 【0028】

図3に示すように、各ストッパ部材10は、プレート保持部材4の前面に突出するよう設けられる。本実施形態においては、各ストッパ部材10は、前方に向かって窄む略円筒状に形成されたゴム材からなる。ここで、ゲート側固定部材3には、プレート保持部材4がリヤゲート1側に回動した際に、各ストッパ部材1

0が挿通されるストッパ挿通孔3aが形成される。

## 【0029】

さらに、リヤゲート1には、図7及び図8に示すように、プレート保持部材4がリヤゲート1側に回動した際に、ストッパ部材10を受容する受容凹部1aが形成される。この受容凹部1aは、ブラケット2に対して凹に形成されており、ストッパ部材10が受容凹部1aと当接するようになっている。

## 【0030】

ここで回動機構5について説明する。本実施形態においては、図4に示すように、回動機構5は、一端側がゲート側固定部材3の左右上端側に回動自在に接続されるアーム部材5aと、アーム部材5aの他端側のピン部材5bを挿通しプレート保持部材4の左右上端に形成される溝部5cとを有している。尚、本実施形態においては、図3に示すように、回動機構5は、ゲート側固定部材3からプレート保持部材4側に突出する軸支部5dが形成された軸支部5dを有する。この軸支部5dは、ゲート側固定部材3の上端側と、プレート保持部材4の上端側とを回動自在に接続する。この軸支部5dにより、ゲート側固定部材3からプレート保持部材4側へ離隔した位置を中心として、プレート保持部材4はゲート側固定部材3に対して回動するようになっている。すなわち、溝部5c内をピン部材5bが移動することにより、アーム部材5aが回動するとともに、プレート保持部材4が回動するようになっている。

## 【0031】

すなわち、プレート保持部材4は、回動機構5を介してゲート側固定部材3に回動自在に接続され、リヤゲート1に対してライセンスプレートLPを略平行な状態と、略起立した状態と、に移動可能となっている。本実施形態においては、プレート保持部材4の所定方向の一端側がゲート側固定部材3に接続される。この所定方向及び一端側とは、リヤゲート1が略垂直状態で、ライセンスプレートLPがリヤゲート1に対して略平行の状態のときの上下方向及び上端側である。

## 【0032】

以上のように構成されたライセンスプレート保持ブラケット2においては、図1及び図7に示すように、リヤゲート1が略垂直状態のときは、ライセンスプレ

ートLPがリヤゲート1と略平行な状態となるように、プレート保持部材4を位置させる。本実施形態においては、プレート保持部材4の所定方向の他端側をゲート側固定部材3と近接するように、プレート保持部材4をゲート側固定部材3に対して回動させ、ゲート側固定部材3とプレート保持部材4とが略平行な状態となるよう折り畳むと、リヤゲート1とライセンスプレートLPとが略平行となる。これにより、車両の後方からライセンスプレートLPが視認可能な状態となる。このとき、プレート保持部材4の各ストッパ部材10は、リヤゲート1と当接する。

#### 【0033】

本実施形態においては、図7に示すように、リヤゲート1と、プレート保持部材4の各ストッパ部材10とが当接すると、各ストッパ部材10はリヤゲート1の受容凹部1a内に受容される。これにより、各ストッパ部材10の寸法を考慮することなく、プレート保持部材4がリヤゲート1側に近接する位置に設定することができる。

#### 【0034】

また、リヤゲート1が略水平状態のときは、図6及び図8に示すように、ライセンスプレートLPがリヤゲート1に対して略起立した状態となるように、プレート保持部材4を位置させる。本実施形態においては、図5に示すように、プレート保持部材4の所定方向の他端側をゲート側固定部材3から離隔するように、プレート保持部材4をゲート側固定部材3に対して回動させ、プレート保持部材4をリヤゲート1側から突出させると、リヤゲート1に対してライセンスプレートLPが略起立した状態となる。すなわち、略水平のリヤゲート1から、ライセンスプレートLPが下方へ突出するので、車両の後方からライセンスプレートLPが視認可能な状態となる。このとき、プレート保持部材4の各ストッパ部材10は、リヤバンパRBと当接する。

#### 【0035】

また、各ストッパ部材10が弾性体であるので、走行時の車両の振動によるリヤゲート1又はリヤバンパRBとプレート保持部材4との相対的な移動は、各ストッパ部材10の伸縮により吸収される。すなわち、車両の走行時に、プレート

保持部材4を的確にリヤゲート1又はリヤバンパRBに追従させることができる。

【0036】

各ストッパ部材10がゴム材であるので、プレート保持部材4をリヤゲート1に対して回動させた際や、車両の走行時等に、各ストッパ部材10からリヤゲート1又はリヤバンパRBに負荷が加わっても、リヤゲート1又はリヤバンパRBにおける各ストッパ部材10との当接部分が、各ストッパ部材10により摩耗することはない。

【0037】

このように、本実施形態のライセンスプレート保持ブラケット2によれば、リヤゲート1が略垂直状態であっても、略水平状態であっても、ライセンスプレートLPを車両後方から視認することができる。すなわち、荷台を開状態のままで、ライセンスプレートLPが後方より視認される状態であるので、支障なく車両を走行させることができ、実用に際して極めて有利である。

【0038】

また、リヤゲート1とライセンスプレートLPとが略平行な状態では、プレート保持部材4の各ストッパ部材10がリヤゲート1と当接することにより、プレート保持部材4及びライセンスプレートLPがリヤゲート1に的確に支持され、ライセンスプレートLPの振動等が抑制される。また、リヤゲート1が略水平な状態で、且つ、リヤゲート1に対してライセンスプレートLPが略起立した状態では、プレート保持部材4の各ストッパ部材10がリヤバンパRBと当接することにより、プレート保持部材4及びライセンスプレートLPがリヤバンパに的確に支持され、ライセンスプレートLPの振動等が抑制される。すなわち、リヤゲート1が略垂直状態、略水平状態のいずれであっても、ライセンスプレートLPの振動等を抑制することができ、ブラケット2の各部の信頼耐久性を確保するとともに、びびり音等を抑制することができる。

【0039】

さらに、各ストッパ部材10が、リヤゲート1が略垂直状態のときはリヤゲート1と、リヤゲート1が略水平状態のときはリヤバンパRBと当接するので、リ

ヤゲート1の開閉状態に対応するように別個にストッパ部材10を設ける必要がなく、部品点数を削減して製造コストを低減することができる。

#### 【0040】

さらにまた、リヤゲート1にライセンスプレートLPを取り付けることができるので、車両の造形上の自由度が飛躍的に向上し、車両の商品性を向上することができる。

#### 【0041】

また、本実施形態のライセンスプレート保持ブラケット2によれば、各ストップ6を弾性体としたことにより、プレート保持部材4及びライセンスプレートLPが、車両走行時にリヤゲート1又はリヤバンパRBに対してばたつくことはなく、これによっても、ブラケット2の各部の信頼耐久性を向上することができるし、びびり音等を抑制することができる。

#### 【0042】

また、本実施形態のライセンスプレート保持ブラケット2によれば、各ストップ部材10がゴム材であるので、リヤゲート1又はリヤバンパRBにおける各ストッパ部材10との当接部分を的確に保護することができる。特に、リヤバンパRBは車両の外部に露出して直接的に視認されるものであり、リヤバンパRBの変形、損傷等は車両の見栄えに直結するものである。すなわち、このリヤバンパRBの摩耗を的確に防止することにより、車両の見栄えを良好に維持することができる。

#### 【0043】

また、本実施形態の車両のライセンスプレート保持構造によれば、リヤゲート1に受容凹部1aを形成したことにより、リヤゲート1に近接させてライセンスプレート保持ブラケット2を設置することができ、リヤゲート1からブラケット2及びライセンスプレートLPが大きく突出することではなく、車両の見栄えを損なうことがなく、実用に際して極めて有利である。

#### 【0044】

また、本実施形態のライセンスプレート保持ブラケット2によれば、ストッパ部材10を略円筒状に形成したので、ストッパ部材10が伸縮変形することに加

え、折れ曲がり変形によってもリヤゲート1又はリヤバンパRBとプレート保持部材4との相対移動が許容される。従って、プレート保持部材4のリヤゲート1又はリヤバンパRB側への移動量を大きく確保することができる。

#### 【0045】

尚、前記実施形態においては、ストッパ部材10が略円筒状のゴム材であるものを見たが、形状は略円筒状でなくとも、略半球状等であってもよいことは勿論である。また、材質はゴム材でなく、ウレタン樹脂等の他の弾性体であっても、プレート保持部材4及びライセンスプレートLPが、車両走行時にリヤゲート1又はリヤバンパRBに対してばたつくことはないことは勿論である。

#### 【0046】

また、前記実施形態においては、回動機構5を、アーム部材5aと、ピン部材5bと、溝部5cとから構成したものを示したが、例えば、プレート保持部材4にピン部材を直接設け、このピン部材を挿通する孔をゲート側固定部材3に形成したものであってもよい。

#### 【0047】

また、前記実施形態においては、ゲート側固定部材3及びプレート保持部材4をそれぞれ板状に形成したものを示したが、これらは、例えば、棒状であってもよい。さらには、ストッパ部材10がリヤゲート1と当接するものを示したが、ゲート側固定部材3と当接するものであってもよいし、その他、具体的な細部構造等についても適宜に変更可能であることは勿論である。

#### 【0048】

##### 【発明の効果】

以上詳述したように、本発明のライセンスプレート保持ブラケットによれば、リヤゲートが略垂直状態であっても、略水平状態であっても、ライセンスプレートを車両後方から視認することができる。すなわち、荷台を開状態のままでも、ライセンスプレートが後方より視認される状態であるので、支障なく車両を走行させることができ、実用に際して極めて有利である。

また、リヤゲートが略水平な状態で、且つ、リヤゲートに対してライセンスプレートが略起立した状態では、プレート保持部材のストッパ部材がリヤバンパと

当接することにより、プレート保持部材及びライセンスプレートがリヤバンパに的確に支持され、ライセンスプレートの振動等が抑制される。すなわち、リヤゲートが略水平状態のときに、ライセンスプレートの振動等を抑制することができ、ブラケットの各部の信頼耐久性を確保するとともに、びびり音等を抑制することができる。

さらに、リヤゲートにライセンスプレートを取り付けることができるので、車両の造形上の自由度が飛躍的に向上し、車両の商品性を向上することができる。

#### 【0049】

また、本発明の車両のライセンスプレート保持構造によれば、リヤゲートに近接させてライセンスプレート保持ブラケットを設置することができ、リヤゲートからブラケット及びライセンスプレートが大きく突出することではなく、車両の見栄えを損なうことがなく、実用に際して極めて有利である。

#### 【図面の簡単な説明】

##### 【図1】

本発明の一実施形態を示すもので、リヤゲートが略垂直状態の車両の背面図である。

##### 【図2】

ゲート側固定部材とプレート保持部材とが略平行な状態のライセンスプレート保持ブラケットの背面図である。

##### 【図3】

ゲート側固定部材に対してプレート保持部材が略起立した状態のライセンスプレート保持ブラケットの正面図である。

##### 【図4】

ゲート側固定部材に対してプレート保持部材が略起立した状態のライセンスプレート保持ブラケットの側面図である。

##### 【図5】

リヤゲートが略垂直状態でライセンスプレートがリヤゲートに対して略起立した状態の車両の外観斜視図である。

##### 【図6】

リヤゲートが略水平状態でライセンスプレートがリヤゲートに対して略起立した状態の車両の外観斜視図である。

## 【図7】

リヤゲートが略垂直状態でライセンスプレートがリヤゲートに対して略平行の状態の車両の一部側面説明図である。

## 【図8】

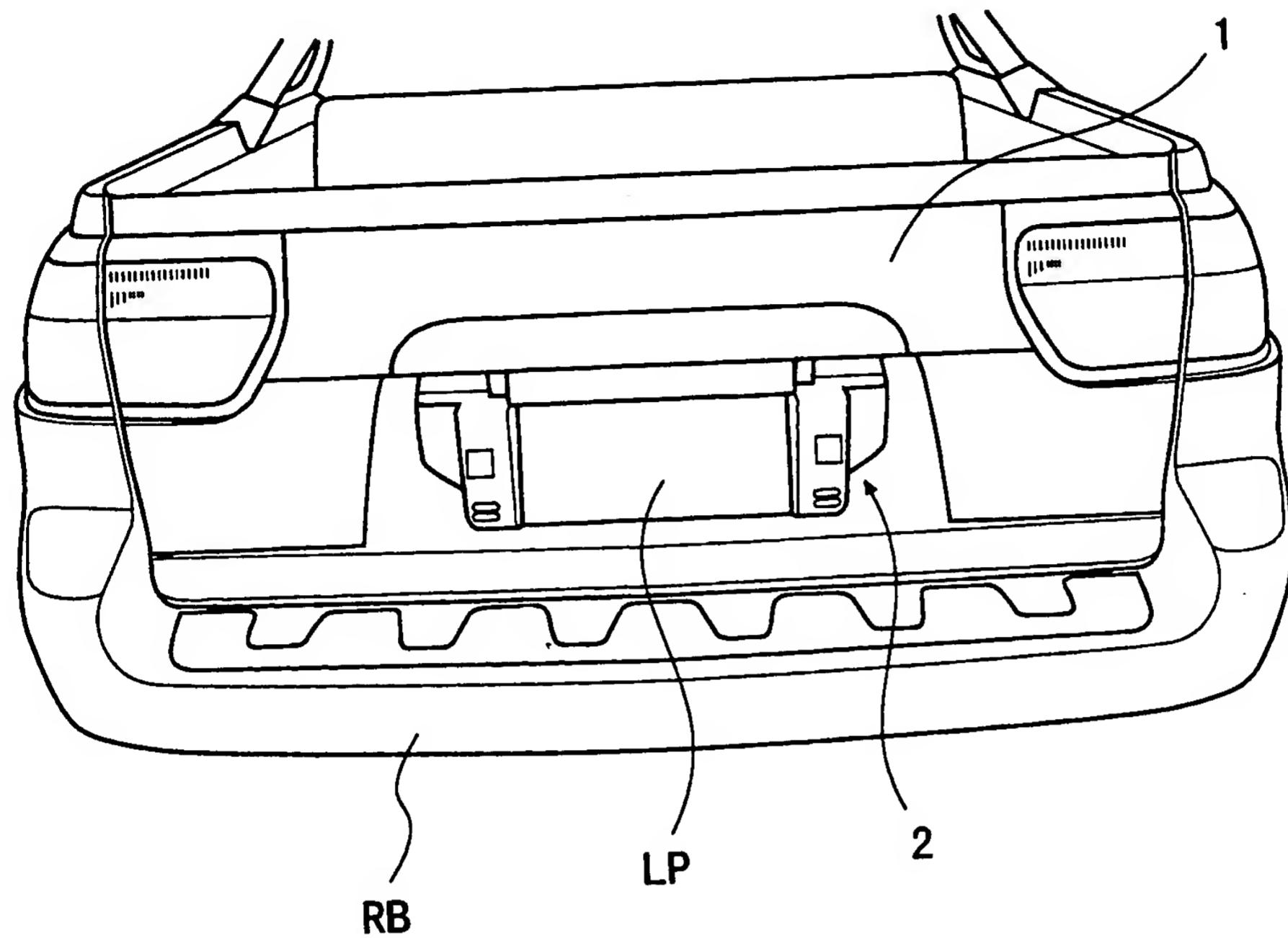
リヤゲートが略水平状態でライセンスプレートがリヤゲートに対して略起立した状態の車両の一部側面説明図である。

## 【符号の説明】

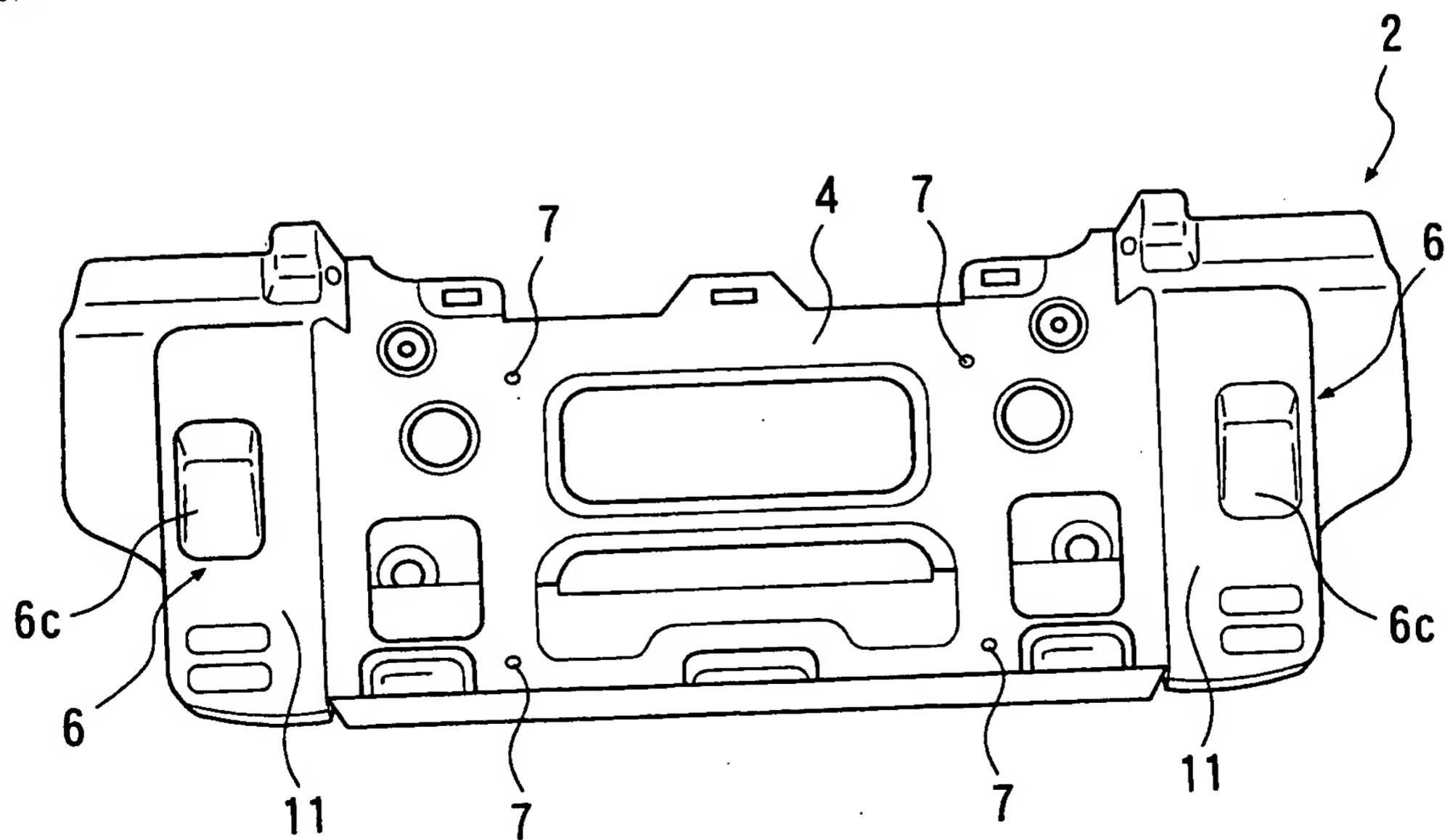
- |     |                  |
|-----|------------------|
| 1   | リヤゲート            |
| 1 a | 受容凹部             |
| 2   | ライセンスプレート保持ブラケット |
| 3   | ゲート側固定部材         |
| 4   | プレート保持部材         |
| 5   | 回動機構             |
| 6   | ロック機構            |
| 10  | ストッパ部材           |
| L P | ライセンスプレート        |
| R B | リヤバンパ            |

【書類名】 図面

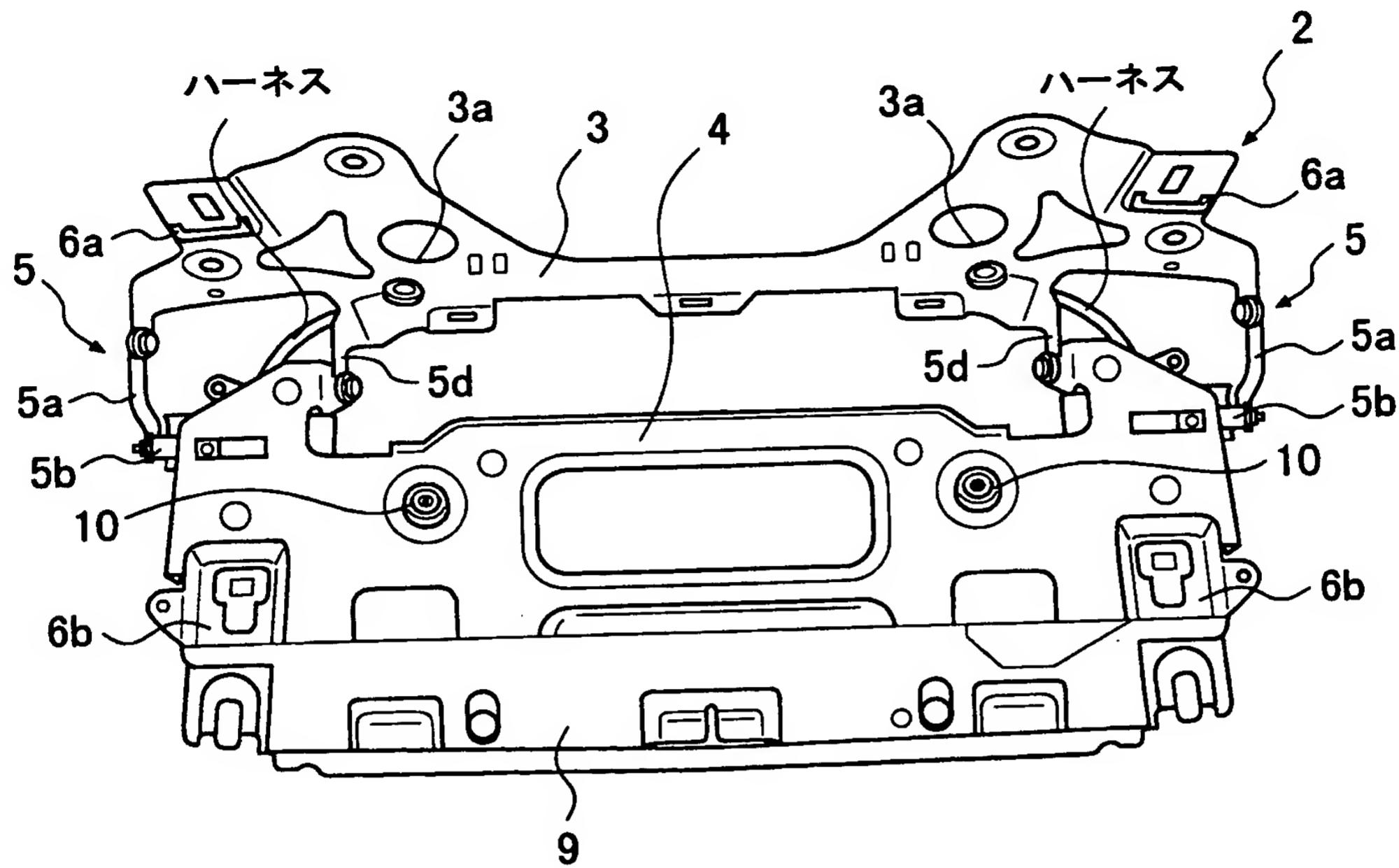
【図1】



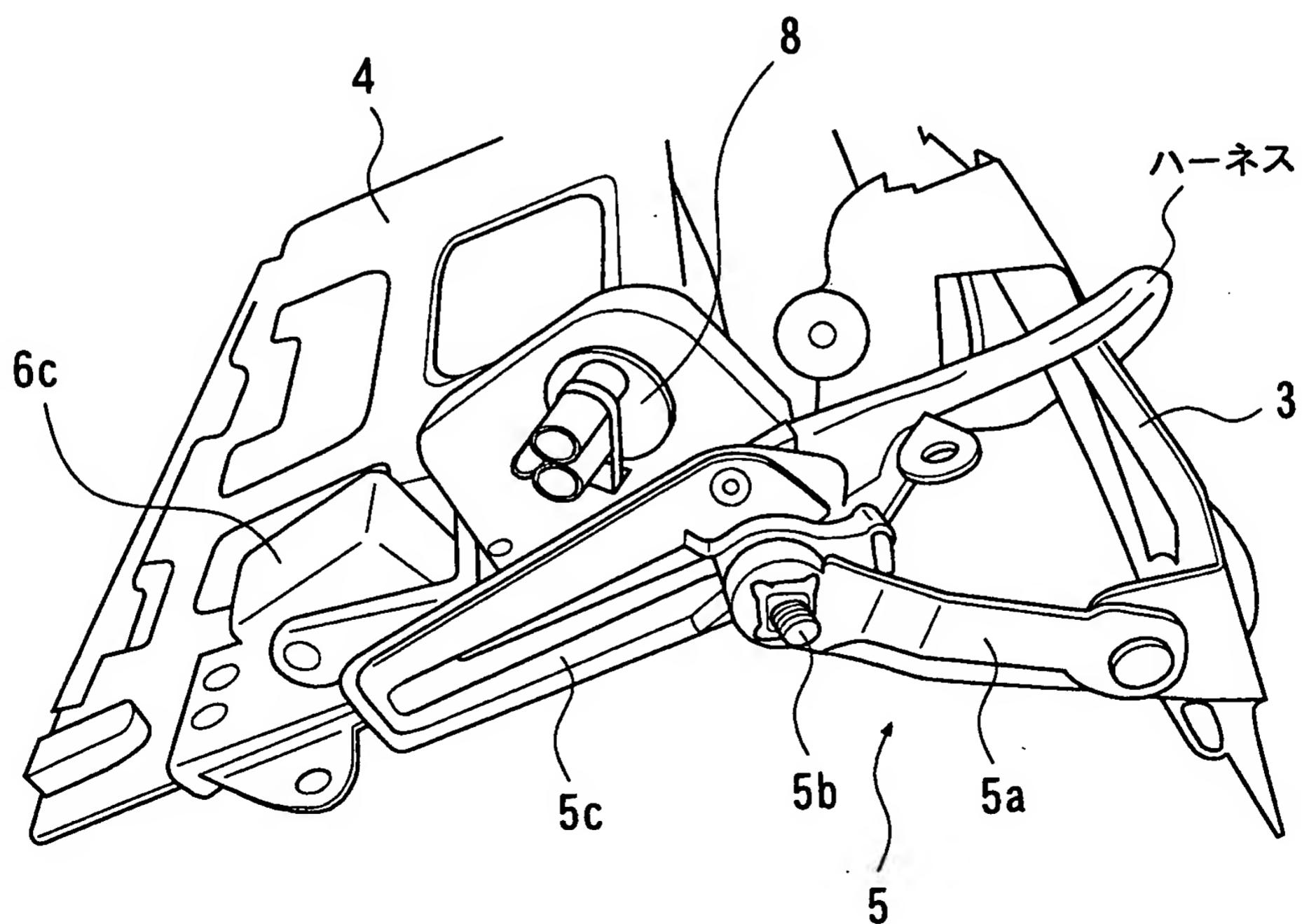
【図2】



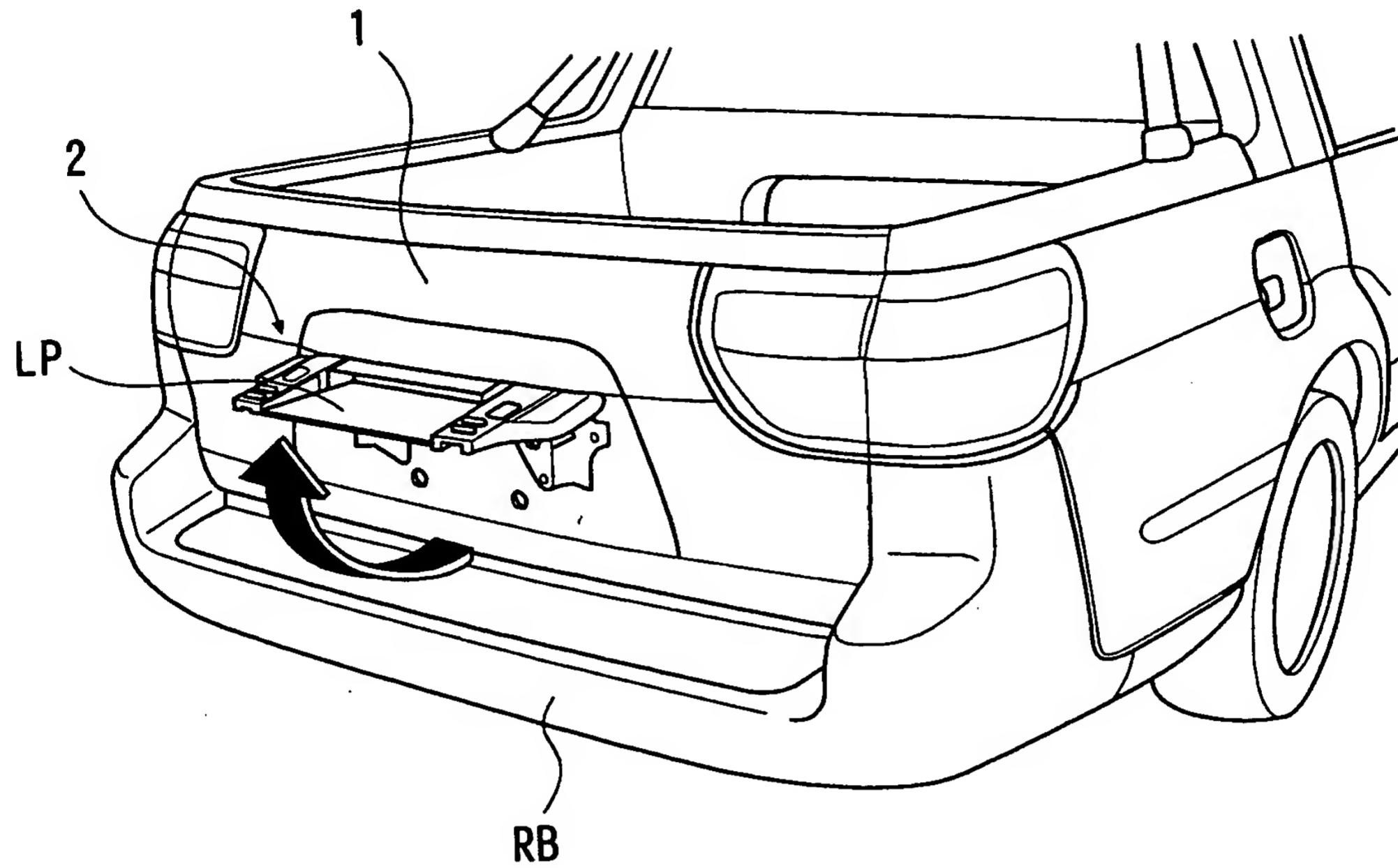
【図3】



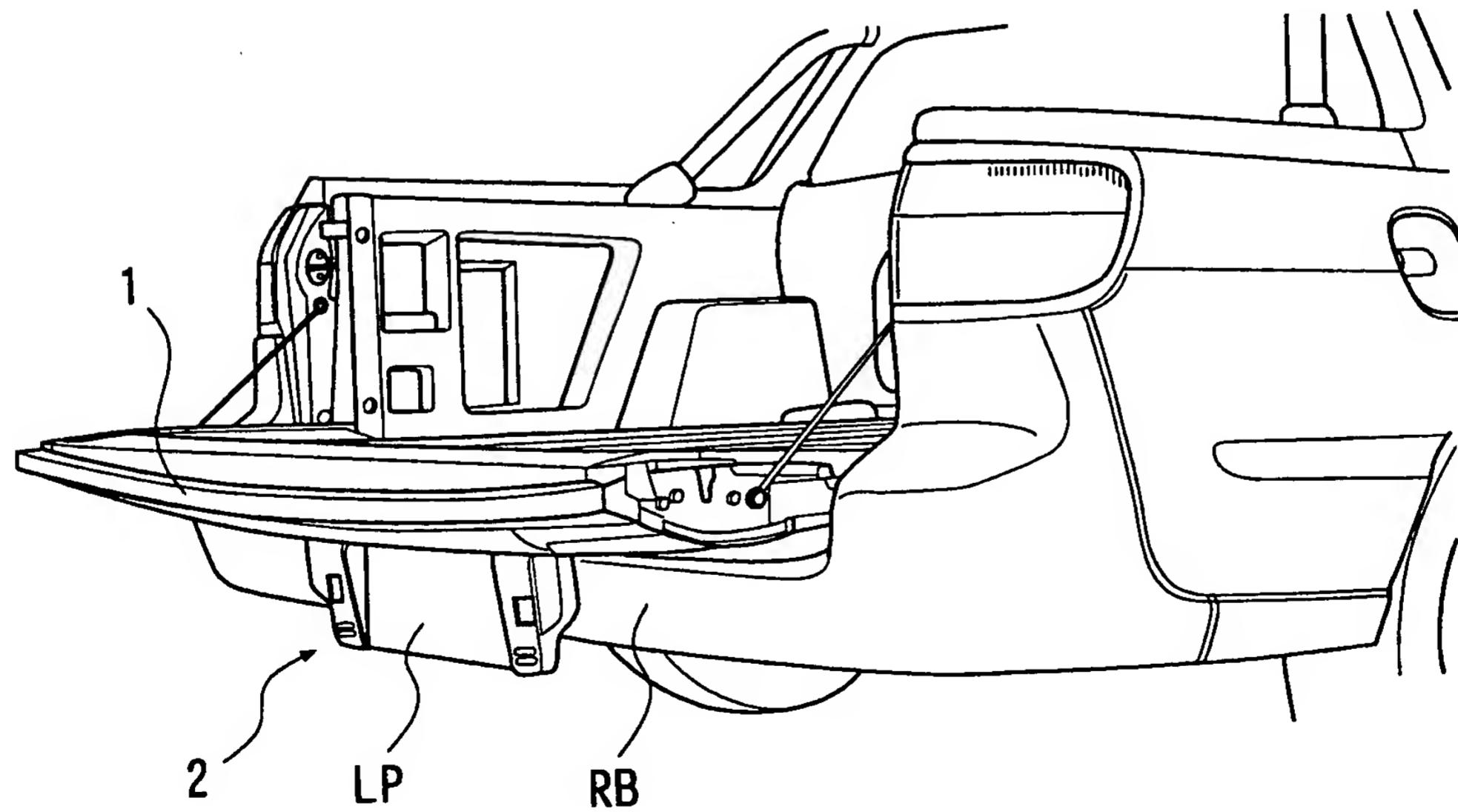
【図4】



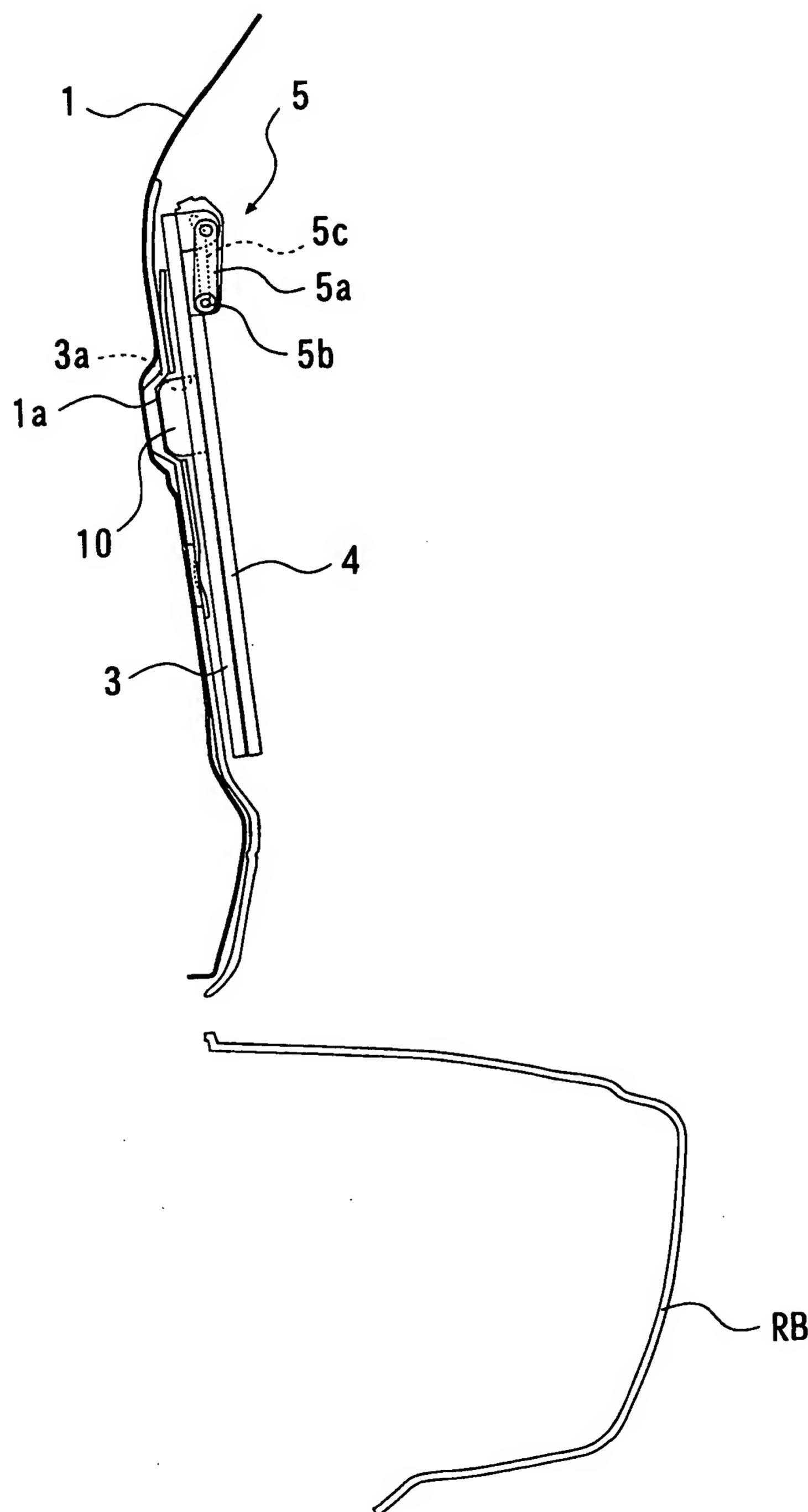
【図5】



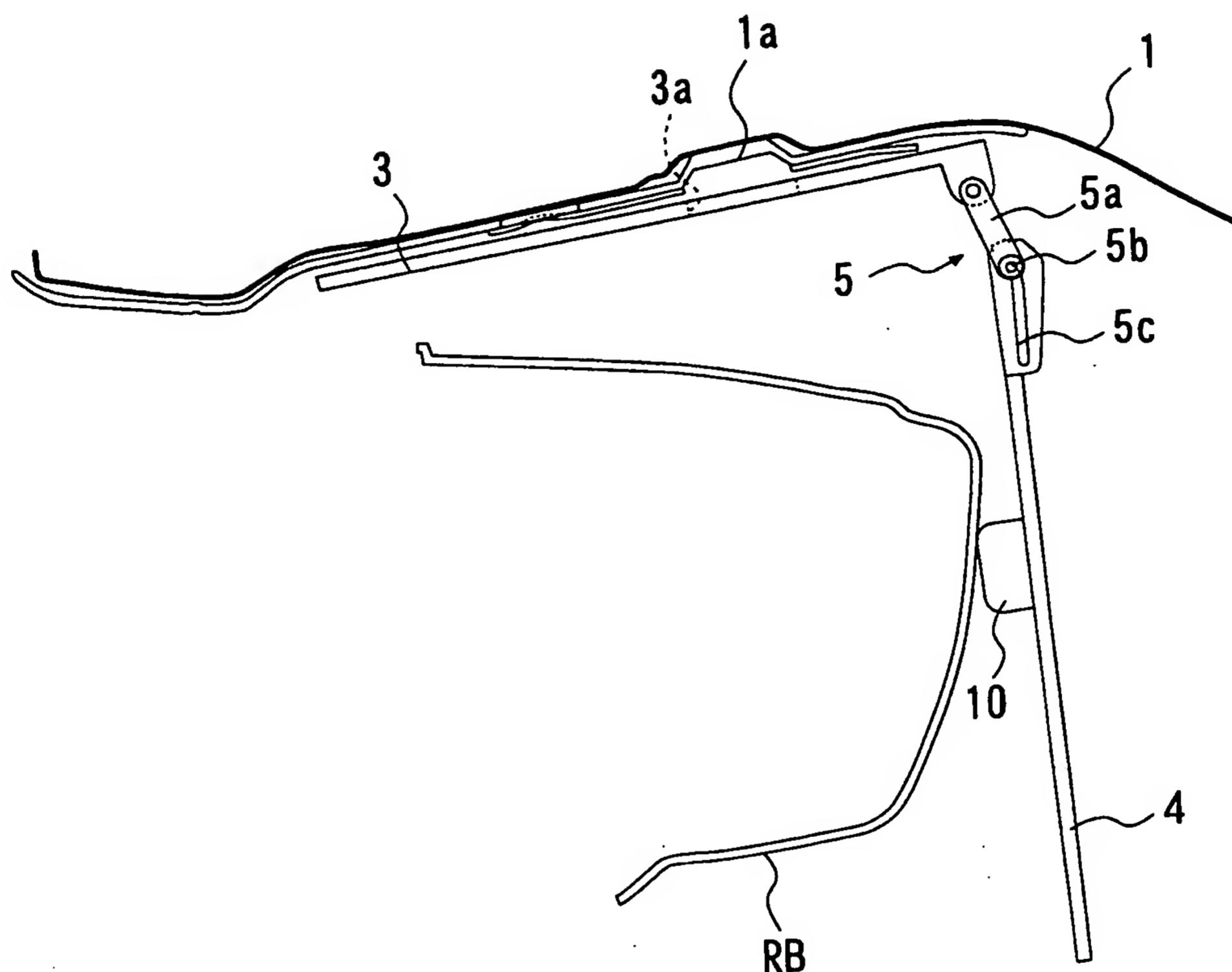
【図6】



【図7】



【図8】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 ライセンスプレートをリヤゲートに取り付けた際に、リヤゲートが略垂直状態であっても、略水平状態であっても、ライセンスプレートを車両後方から観認することができようし、且つ、ライセンスプレートを的確に支持する。

【解決手段】 リヤゲート1に固定されるゲート側固定部材と、ライセンスプレートLPを保持し、ゲート側固定部材に回動自在に接続され、リヤゲート1に対してライセンスプレートLPを略平行な状態と、略起立した状態と、に移動可能なプレート保持部材と、を備え、プレート保持部材に、略平行な状態でリヤゲート1と当接し、略起立した状態でリヤバンパRBと当接するストッパ部材を設けた。

【選択図】 図6

出願人履歴情報

識別番号 [000005348]

1. 変更年月日 1990年 8月 9日

[変更理由] 新規登録

住 所 東京都新宿区西新宿一丁目7番2号  
氏 名 富士重工業株式会社